

祖母・傾・大崩山系周辺地域の
ユネスコエコパーク登録を目指しています！

※2017年6月 登録決定

えだ
『家田湿原』

北川湿原 ガイドブック

かわざか
『川坂湿原』



- ラムサール条約湿地潜在候補地●
- 日本の重要湿地500●
- 宮崎県重要生息地●

希少動植物と自然環境をみんなで守りましょう！

北川湿原(家田・川坂湿原)の概要

- ◎ラムサール条約湿地潜在候補地……H22(2010)
- ◎宮崎県の重要生息地……H20(2008)
- ◎日本の重要湿地500……H13(2001)

北川湿原は、宮崎県延岡市北川町の家田地区と川坂地区に広がる約20haの湿地で、家田湿原(18ha)と川坂湿原(2ha)を総称して「北川湿原」と呼んでいます。絶滅危惧種の動植物が70種以上生息し、国内でも学術的に極めて価値の高い湿原です。



川坂湿原

ここは、人の営みと共存した水辺環境であることが特筆すべきポイントです。高速道路・県道・市道が湿原のすぐ脇を通り、周辺には民家が建ち並んでいます。家田川と川坂川は、農業用水・排水として利用され、稲作などが現在も続けられています。こうした環境の中で希少動植物が絶えることなく今日まで残っているのは、見方を変えれば、人の営みが湿原を守ってきたとも考えられます。地元で百年以上続く「溝さうえ」と呼ぶ共同作業は、湿原に軽度のかく乱をもたらす、種の保全に大きな役割を果たしているのかもしれません。



家田川の溝さうえ

日本最大級の コウホネ群落

湿原を代表するものは、コウホネと呼ばれるスイレン科の植物。家田川と川坂川に数多く生育し、その規模は日本最大級。葉っぱがスイレンに似ていて、水上に伸びた細長い茎に黄色い花が付き、5月から11月まで観賞できます。

北川湿原は、タデ科植物が多いのも特徴です。サクラタデ、サデクサ、ナガバノウナギツカミなどが群落を形成し、10月には湿原をピンク色に染め上げます。キタガワヒルムシロと呼ばれる固有の植物などもあり、四季を通して多種多様な草花で楽しむことが可能です。



この湿原は、「トンボの楽園」と呼んでも過言ではありません。40種を超えるトンボが確認されていて、そのうち14種は絶滅危惧種。特にイトトンボの仲間が多く生息し、代表的なものはグンバイトンボ。雄の中足と後足の4本に、白い葉っぱのようなものが付いています。それが、相撲の行司さんが持つ軍配に似ていることからグンバイトンボの名前が付けられました。3~4cmの小さなトンボで、5月から7月にかけて見られます。

トンボ以外にも、メダカ、ドジョウ、ナマズ、ゲンゴロウ、アメンボ、イシガメなど、絶滅危惧種に指定された魚や水生生物を日常的に観察することができます。北川湿原は、驚きと感動の水辺なのです。



グンバイトンボ

ユネスコエコパーク登録を目指して

※2017年6月 登録決定

宮崎県と大分県にまたがる祖母・傾・大崩山系周辺地域の自治体では、現在、ユネスコエコパーク登録を目指しています。北川湿原もそのエリアの一部に含まれる予定です。私たちは、豊かな自然を敬い、その恵みを大切にしながら暮らしてきました。これからも、自然と人が元氣な里地・里山づくりに努めます。ユネスコエコパーク登録が、地域発展の大きなきっかけになればと考えています。



湿原観察会



家田湿原の野焼き

北川湿原の散策

北川湿原(家田・川坂湿原)は、九州において、最も規模の大きい湿原のひとつです。魅力は、なんといっても東九州自動車道北川インターチェンジから車で5分というアクセスの良さと、普段着で散策できる手軽さ。観光地としてはもちろん、市民の憩いとレクリエーション、小中学生の環境学習、大学の研究など、多くの方々が訪れています。

春

里山の照葉樹林が萌え始めると、湿原の草木もいつせいに芽吹き、春の装いへ衣替え。家田川や川坂川では、コウホネが葉っぱを水上に伸ばし始め、羽化したトンボ達が、飛び交います。五月晴れの湿原散策は、見どころいっぱいです。



川坂湿原 新緑の頃



家田湿原 やまのはな橋付近

希少植物の宝庫



家田湿原

夏になると湿原のコウホネが競い合うように水上に花を突き出し、8月から9月に見頃を迎えます。そのまわりではハグロトンボをはじめ、多くのトンボが縄張り争いを繰り広げます。家田川・川坂川では、ドジョウ、メダカ、オイカワ、コイ、フナ、ナマズなど、たくさんの魚類が見られます。

夏



川坂湿原



山の内谷川

秋

北川湿原の秋は、とても華やかです。サデクサ、ナガバノウナギツカミ、サクラタデが咲きほころぶ湿原は、ピンクの絨毯を敷き詰めたようです。赤とんぼが、飛び交うのもこの時期。花が終わり、実を結んだ草木を観賞するのも秋ならではの楽しみ。北川湿原の奥深さを堪能できる季節です。



オギ群落



ナガバノウナギツカミ群落



家田湿原

希少植物

オグラコウホネ(巨椋河骨)



北川湿原を代表する希少植物。「川坂川」とその支流「山の内谷川」に群生しています。スイレン科コウホネ属の多年草で、中部地方から九州にかけて分布する日本固有種。コウホネは、「河骨」又は「川骨」と書きます。地下茎が動物の骨に似ているところからきています。和名は京都府にあった巨椋池に由来。
花期5月～11月 宮崎県絶滅危惧ⅠB類
環境省絶滅危惧Ⅱ類

サイゴクヒメコウホネ(西国姫河骨)



西日本の湖沼・ため池・河川・水路に群生する抽水植物。家田川のサイゴクヒメコウホネは、上流から下流域まで1,000株以上群生し、その規模は日本一とも言われます。本種は、川坂川のオグラコウホネと並び北川湿原を代表する希少植物です。コウホネの花言葉は「秘められた愛情」。花期5月～11月 宮崎県絶滅危惧Ⅱ類 環境省絶滅危惧Ⅱ類

サデクサ(叉手草、摩草)



家田・川坂ともに最も多く生育しているタデ科の植物。葉柄にするどいトゲがあるのが特徴。秋になるとピンクや赤に色づき、湿地を彩ります。宮崎県絶滅危惧ⅠA類

ナガバノウナギツカミ(長葉の鰻掴み)



秋の北川湿原を散策すれば間違いなくお目にかかれます。昔の人はサウサウした茎でウナギを掴んでいたのでしょうか？ 花期8月～10月 宮崎県絶滅危惧ⅠA類 環境省準絶滅危惧

マイツルテンナンショウ(舞鶴天南星)



球状の地下茎をもつサトイモ科の多年草、コンニャクなどの仲間です。和名は鶴が舞っている姿に見立てています。「天南星」は、中国で夜空に広がる星の意味。宮崎県絶滅危惧ⅠB類 環境省絶滅危惧Ⅱ類

ミストラノオ(水虎の尾)



西日本の水田や湿地帯に自生するシソ科の多年草。花の形を虎の尾にたとえています。他の植物に寄り添い、柔らかい茎を伸ばし生長します。花期8月～10月 宮崎県絶滅危惧ⅠA類 環境省絶滅危惧Ⅱ類

(絶滅危惧種)

イヌゴマ(犬胡麻)



湿地に生えるシソ科の多年草。実がゴマに似ていますが、食用にならず役に立たないことからイヌゴマと命名されています。別名はチヨロギダマシ 花期8月～9月 宮崎県絶滅危惧ⅠA類

ウマスゲ(馬菅)



陽当たりの良い湿地に生育するカヤツリグサ科の多年草。太くて長い地下茎を持ち、果胞や小穂が大きいのが特徴です。見頃4月～6月 宮崎県絶滅危惧ⅠA類

オニナルコスゲ(鬼鳴子菅)



カヤツリグサ科の多年草 和名の由来は、細い柄から垂れ下がった果穂が大きな鳴子のように見えることから。花期5月～7月。宮崎県絶滅危惧ⅠA類

キタガワヒルムシロ(北川蛭薺)



家田川の上流から下流にかけて無数に群生。平成12年に国内の水草研究第一人者の角野氏(神戸大学)が新種と判断したもの。6月頃に水面に茎を出して開花、結実します。宮崎県絶滅危惧ⅠB類

ゴキツル(合器蔓)



ウリ科の一年生のつる植物。本州・四国・九州に分布。合器はふたのついたお椀の意味。果実が熟すと上下にふたを開けるように真中から割れて種が出てきます。見頃8月～11月 宮崎県準絶滅危惧

サイコクヌカボ(西国糠穂)



明るい湿地に生育するタデ科の一年草。葉にV字の模様があるのが特徴。家田川上流や川坂地区の休耕田に生育。見頃8月～10月 宮崎県絶滅危惧ⅠA類 環境省絶滅危惧Ⅱ類

セキショウモ(石菖藻)



湖沼やため池、比較的小さいきれいな小川の流水中に群生する沈水性の多年草。葉がサトイモ科のセキショウに似ていることから和名が付けられました。見頃7月～10月 宮崎県絶滅危惧Ⅱ類

ナガエミクリ(長柄実栗)



ミクリ科の多年生草本。湖沼・ため池・河川・水路などに生育。花や果実の集まった姿が、栗のイガに似ているため「ミクリ(実栗)」と呼ばれています。見頃7月～10月 宮崎県絶滅危惧Ⅱ類 環境省準絶滅危惧

希少植物(絶滅危惧種)

チョウジソウ(丁字草)



花の形が横から見ると「丁」の字に見えることから命名。リンドウ目キョウチクトウ科 宿根草でやや湿った草地に自生。花期5月～6月 宮崎県絶滅危惧ⅠB類 環境省準絶滅危惧

ヌカボタデ(糠穂蓼)



「糠穂」は田の畦などに生えるイネ科の植物のこと。本種は、茎や葉が細く、花も小さいので、見過ごしてしまいそうです。花期9月～11月 宮崎県絶滅危惧ⅠB類 環境省絶滅危惧Ⅱ類

ヌマゼリ(沼芹)



池や沼など水辺の湿地に生えるゼリ科の多年草。別名「サワゼリ」とも言います。見頃8月～10月 宮崎県絶滅危惧ⅠA類 環境省絶滅危惧Ⅱ類

ハタベカンガレイ(端辺寒枯藺)



湧水の見られる河川などに生えるカヤツリグサ科の多年草。冬に枯れた枝が残るイグサに似た植物という意味です。「端辺」は熊本県阿蘇山北外輪山地域のこと。 宮崎県絶滅危惧ⅠA類 環境省絶滅危惧Ⅱ類

ヒメシロアササ(姫白浅沙)



ミツガシワ科の多年草で湖沼やため池、水田などに生息する水草。本州以西に分布。田んぼの雑草でつかいもの扱いされる地域もあるそうです。花期7月～9月 宮崎県絶滅危惧ⅠB類 環境省絶滅危惧Ⅱ類

マツカサススキ(松穂薄)



カヤツリグサ科の多年草。花穂がマツカサに見えるところから命名。本州から九州にかけて分布。草丈は1mから1.5m程度で湿地や河川敷などで育ちます。花期8月～10月 宮崎県絶滅危惧ⅠA類

ミズオオバコ(水大葉子)



池沼・水田・小川などに生えるトチカガミ科の一年草。葉の形がオオバコに似ているところから命名。水草としての人気が高く、市販されています。見頃7月～9月 宮崎県絶滅危惧ⅠB類 環境省絶滅危惧Ⅱ類

ミズネコノオ(水猫の尾)



湿地や水田などに生息するシソ科の一年草。関東以西に広く分布。茎が多数枝分かれし、先端に長さ2～6cmほどの直立する穂状の花をつけます。花期8月～10月 宮崎県絶滅危惧Ⅱ類 環境省準絶滅危惧

ヨロイグサ(鎧草)



ゼリ科の多年草で中国や九州に分布。高さ1～2m。茎は中空で紫紅色、上部で分岐します。薬草としても栽培されています。花期7月～8月 宮崎県絶滅危惧ⅠA類

ミソコウジュ(溝香藺)



湿っぽい田の畦などに生えるシソ科の越年草。別名はユキミソウ。乾かしたものは漢方で「香藺」と呼んで、解熱剤などに用います。 宮崎県準絶滅危惧 環境省準絶滅危惧

タデ科の植物



ヤノネグサ(矢根草)



サクラタデ(桜蓼)



シロバナサクラタデ(白花桜蓼)



ミヅハバ(溝蕎麦)



ヤナギタデ(柳蓼)



アキノウナギツカミ(秋の鰻掴み)

北川湿原は、タデ科の植物が数多く生育しています。絶滅危惧種に指定されている希少種を含め、いつでも10種類以上は見るすることができます。花の色、葉の形などはさまざま。違いが分かってくると植物の多様性に驚かされます。花の時期は9月から10月。サデクサ、ナガバノウナギツカミ、サクラタデ、ミヅハバの群落は、特にオススメです。



イヌタデ(犬蓼)



ボントクタデ(ほんとく＝間抜け)



ホソバノウナギツカミ(細葉の鰻掴み)



イタドリ(虎杖、疼取)

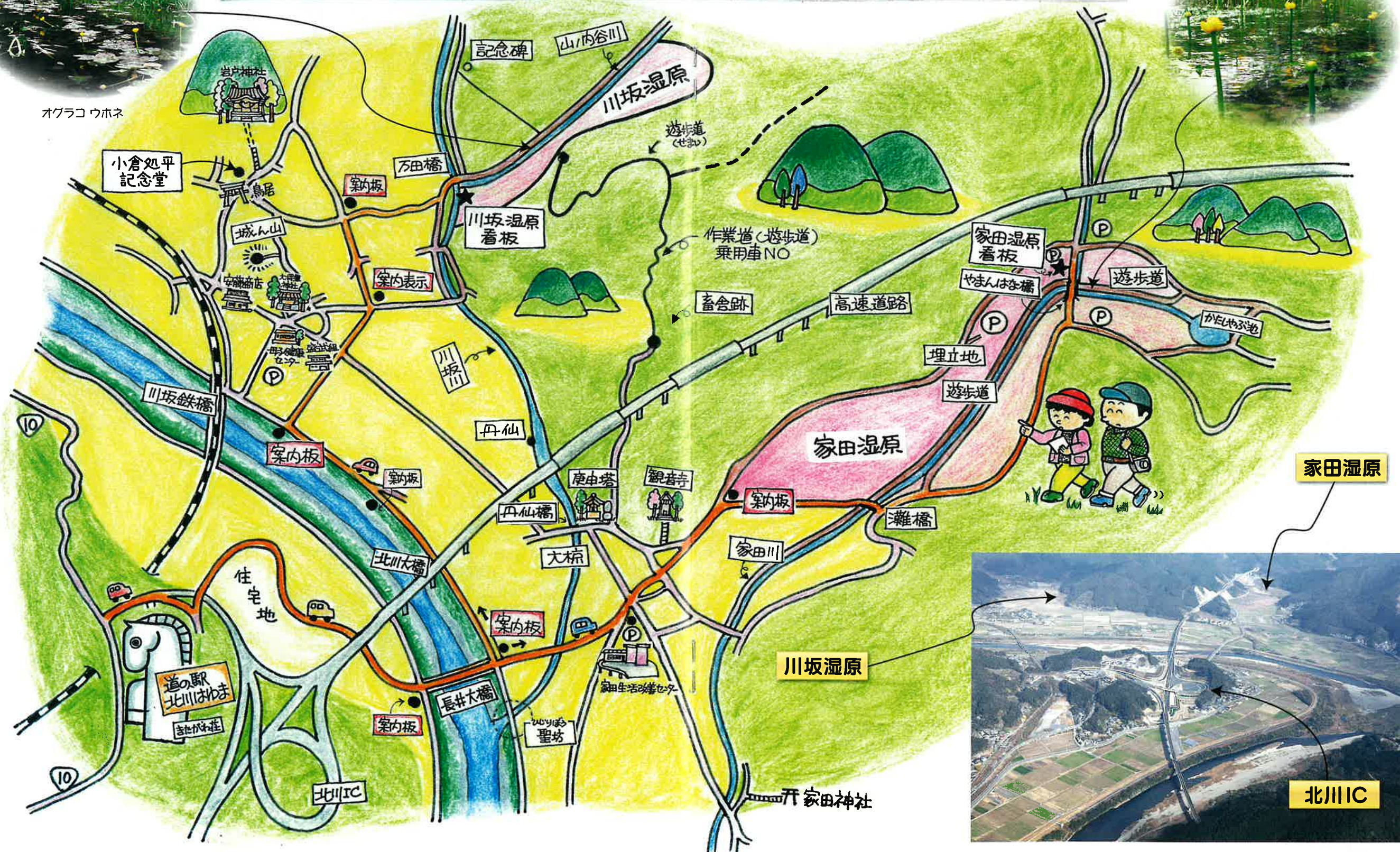


イシミカワ(石実皮など)

北川湿原ガイドマップ

サイゴクヒメコウホネ

オグラコウホネ



とんぼ (蜻蛉)

グンバイトンボ



【軍配蜻蛉】 北川湿原を代表する一番人気のイトトンボ。体長約40mm 宮崎県絶滅危惧ⅠB類 環境省準絶滅危惧ⅠB類 5月～7月

モートンイトトンボ



名前は英トンボ学者K.J.Mortonに由来。雄の腹部は尾に向かうほどオレンジ色が濃くなります。宮崎県絶滅危惧ⅠB類 環境省準絶滅危惧ⅠB類 5月～7月

キイトトンボ



【黄糸蜻蛉】 腹部と顔面がレモンイエローのイトトンボ。雌は緑色のタイプもあります。体長約40mm 6月～10月

オグマサナエ



【小熊早苗】 早春から田植え時期に出現するため「早苗」という名が付けられています。体長約45mm 4月～6月

キイロサナエ



【黄色早苗】 オスは写真のように名前ほど黄色くありません。体長約60mm 宮崎県絶滅危惧Ⅱ類 環境省準絶滅危惧Ⅱ類 4月～6月

タバサナエ



【田部早苗】 名前は幼虫の発見者「田部氏」に由来。体長約45mm 宮崎県絶滅危惧ⅠB類 環境省準絶滅危惧ⅠB類 4月～6月

アオモンイトトンボ



【青紋糸蜻蛉】 胸部側面が淡緑色で腹端が青色。植物が繁茂した池沼・水田・湿地などに生息します。体長30mm～35mm 4月～11月

クロイトトンボ



【黒糸蜻蛉】 全体的に黒っぽいイトトンボ。雄は成熟すると胸部に青白い粉をふきます。体長30mm～50mm 4月～10月

アサヒナカワトンボ



【朝比奈川蜻蛉】 北関東以西の本州から九州に分布。金属光沢の体に白い粉をまとっているのが特徴です。4月～9月

ミヤマアカネ



【深山茜】 雌雄ともにはねの先に褐色斑あり。深山とは裏腹に丘陵地や里山、低山地の緩やかな流れ、田んぼにも生息 6月～12月

マイコアカネ



【舞妓茜】 顔の白さとライトブルー色が舞妓さんをイメージするところから命名。宮崎県絶滅危惧Ⅱ類 6月～11月

マユタテアカネ



【眉立茜】 顔の黒い斑点が眉に似ているところが名前の由来。北川湿原の秋に一番会つて赤トンボ。6月～11月

アジアイトトンボ



【亜細亜糸蜻蛉】 池沼や湿地、休耕田などの植物が茂る岸辺近くに生息。アオモンイトトンボに酷似。体長25mm～30mm 4月～11月

モノサシトンボ



【物差し蜻蛉】 胴体が物差し目の盛りに見えることから命名。雌はグンバイトンボに似ています。体長40mm～50mm 5月～9月

北川湿原で確認されているトンボ

アオイトトンボ	キイロサナエ
アオハダトンボ	キトンボ
アオモンイトトンボ	ギンヤンマ
アキアカネ	クロイトトンボ
アサヒナカワトンボ	グンバイトンボ
アジアイトトンボ	コオニヤンマ
ウスバキトンボ	コシアキトンボ
オオシオカラトンボ	コシボリヤンマ
オグマサナエ	コヤマトンボ
オニヤンマ	サラサヤンマ
カトリヤンマ	シオカラトンボ
キイトトンボ	シオヤトンボ

シヨウジョウトンボ	ホソミオツネトンボ
タカネトンボ	マイコアカネ
タバサナエ	マユタテアカネ
チョウトンボ	ミヤマアカネ
トラフトンボ	ムカシトンボ
ナツアカネ	モートンイトトンボ
ネアカヨシヤンマ	モノサシトンボ
ノシメトンボ	ヨソボシトンボ
ハグロトンボ	リスアカネ
ハネビロエリトンボ	
ハラビロトンボ	
ベニトンボ	

シヨウジョウトンボ



【猩々蜻蛉】 美しい深紅色。雄は縄張り意識が強い。「猩々」は、赤い顔をした人に似た空想上の大型類人猿。4月～10月

ベニトンボ



【紅蜻蛉】 1980年代以降、九州や四国で見られるようになったトンボ。オスは赤紫色、メスはオレンジ色。体長約40mm 6月～11月

ホソミオツネトンボ



【細身越冬蜻蛉】 名前のとおり冬を越します。雌雄ともに水色で、冬の間は茶褐色。体長30mm～40mm 9月～翌年5月

ハグロトンボ



【歯黒蜻蛉】 北川湿原で一番見かけるトンボです。別名オハグロトンボ。雄は真っ黒で、雌はこげ茶。5月～11月

ハラビロトンボ



【腹広蜻蛉】 腹部が幅広いトンボ。北海道から九州まで分布。雄は黒、雌は黄色をしています。4月～9月

シオカラトンボ



【塩辛蜻蛉】 国内で最もポピュラーなトンボ。雄の体の白粉が、塩辛コンブの塩に似ていることから。4月～10月



四季を彩る花々

春



ハハコグサ



ツクシヤブウツギ



オドリコソウ



ヤマフジ



カサスゲ



ウツギ



夏



ミソカクシ



マツヨイクサ



キクモ



ハス(栽培)



セリ



ネジバナ



ハギ



クサギ



オニガヤツリ



オナモミ

秋



リンドウ



オモダカ



ゲンノショウコ



クズ



イボクサ



サネカズラ



ツリフネソウ

鳥、昆虫、両生類など



コウノトリ



クサシギ



カワセミ



ダイサギ



シラサギ



キジ(♂)



キジ(♀)



ミズスマシ



アメンボ

北川湿原の自然環境が、
野鳥、昆虫、魚など多様な
生き物を育んでいます。



ツチガエル



トノサマガエル



アマガエル



オタマジャクシ



ドジョウ



カワムツ



サワガニ



イシガメ



ツマグロヒヨウモン



タテハモドキ



アカタテハ



スッポン



外来生物の脅威

【オオフサモ】



オオフサモは、生態系や人間活動へ影響を及ぼす「日本の侵略的外来種ワースト100」のひとつ。温暖な気候を好む淡水性の水草で、湖沼・ため池・河川・水路などに生育します。現在は、ほぼ全世界に分布。日本には1920年頃に持ち込まれ、意図せず各地に拡散し、場所によっては水面全体を覆い尽くすほど大繁殖。やっかいな理由は、花が結実せずに生長、切れ藻から再生、無性的に繁殖、冬も枯れないなどが挙げられます。

米国では、有害雑草として販売を全面的に禁止している州もあるほど。日本では外来生物法によって「特定外来植物」に指定され、栽培や移動が一切禁止されています。北川湿原では家田川に繁殖。放置しておくとなら植物の生育に影響があるので、「家田の自然を守る会」などが、定期的に駆除作業を行っています。

【オランダガラシ(クレイソ)】



オランダガラシ(和蘭芥子)は、湿地などに生育するアブラナ科の多年草。日本には、明治の初頭、在留外国人用の野菜として持ち込まれたのが始まり。現在では栽培用はもちろん、全国各地に自生。山間の河川中流域にまで分布を伸ばしており、野生化・雑草化しているのも珍しくありません。北川湿原では、家田川上流と川坂川の支流「山の内谷川」で増えています。

食用のクレイソで馴染み深い植物ですが、ここでは厄介もの。ちぎれた茎でも水があれば簡単に根が出るほど繁殖力が旺盛で、生長が速く、汚れた水でも生育します。爆発的に増殖するので、希少植物を駆逐したり、小川をふさぐ恐れがあります。

【スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)】



正式名は「スクミリンゴガイ」。南米原産。在来種のタニシに比べて大きいことから一般に「ジャンボタニシ」と呼ばれています。1980年代に食用目的で日本に入り、養殖されていた時期もありましたが、採算が合わずに放棄されたり、養殖場から逃げ出したりして野生化。九州や西日本を中心に広がっています。繁殖力が強く、雑食性で水田の稲やハスの若葉を食べ、地域によっては被害が深刻化しているため、農林水産省が有害動物に指定。

逆にその爆食性を活かし、水田除草に利用できるので、役に立つ生物でもあります。北川湿原では、水田から流出した貝が希少植物のミズオオバコなどを食べ尽くし、植物が全く育たなくなった水路もあります。個体数をどのようにコントロールしていくかが、これからの課題となりそうです。

植物やトンボの見ごろは？

No.	絶滅危惧種	名 称	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	◎	イヌゴマ									
2	◎	ウマスゲ									
3	◎	オグラコウホネ									
4	◎	オニナルコスゲ									
5	◎	キタガワヒルムシロ									
6	◎	ゴキツル									
7	◎	サイコクヌカボ									
8	◎	サイゴクヒメコウホネ									
9		サクラタデ									
10	◎	サデクサ									
11		シロバナサクラタデ									
12	◎	セキシヨウモ									
13	◎	チヨウジノウ									
14		ツリノネノウ									
15	◎	ナガエミクリ									
16	◎	ナガバノウナギツカミ									
17	◎	ヌカボタデ									
18	◎	ヌマゼリ									
19		ハス(栽培)									
20	◎	ハタベカンガレイ									
21	◎	ヒメシロアササ									
22	◎	マイヅルテンナンショウ									
23	◎	マツカサスキ									
24	◎	ミズオオバコ									
25	◎	ミストラノオ									
26	◎	ミズネコノオ									
27	◎	ミソコウジュ									
28		ミソノバ									
29		ヤナギタデ									
30	◎	ヨロイグサ									

31		アオモンイトトンボ									
32		アサヒナカワトンボ									
33		アジイトトンボ									
34		オグマサナエ									
35		キイトトンボ									
36	◎	キヒロサナエ									
37	◎	グンバイトンボ									
38		クロイトトンボ									
39		シオカラトンボ									
40		ショウジョウトンボ									
41	◎	タバサナエ									
42		ハグロトンボ									
43		ハラビロトンボ									
44		ベニトンボ									
45		ホソミオツネントンボ									
46	◎	マイコアカネ									
47		マユタテアカネ									
48		ミヤマアカネ									
49		モノサシトンボ									
50	◎	モートンイトトンボ									

※毎年、自然条件によって少しずつ異なります。



新しい延岡を楽しもう



【お願い／注意事項】

- 湿原周辺にはトイレがありません。北川ICの「道の駅北川はゆま」をご利用ください。
- 駐車場は、道路脇の空き地や市有地などをご利用ください。
- ぬかるんだ場所もありますので、長時間散策される場合は、念のため長靴などをお持ちください。
- 湿原は個人の所有地が多く残っています。地主さんに迷惑がかからないようにお願いします。
- 指定希少野生動植物を捕獲又は採取すると宮崎県条例により罰せられることがあります。
- 春から秋にかけては、草むらにマムシがいます。ご注意ください。

※レッドデータ区分は、宮崎県2015年版によるものです。

北川湿原(家田・川坂湿原)ガイドブック

2016年 改訂版

川坂川を守る会

〈北川湿原ホームページ〉

<http://kitagawashitsugen.com>